

ジガバチソウ ラン科
Liparis krameri Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2010.6.15/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地がきわめて限られており、生育本数も少ない。生育地における個体数も減少している。生育地の多くは、日当たりのよい崖地である。

■**特徴**：山地のやや乾燥ぎみの林内や岩上に生育する多年生ラン科草本。葉は卵形-広卵形、長さ3-10 cm。クモキリソウやセイタカスズムシソウの葉によく似ているが細縮波縁が特徴。花は淡緑色-暗紫色で、6月ごろ10-20 cmの花茎に10個前後をつける。

■**分布** 県内：若桜町、江府町、日野町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：環境の変化しにくい林内や岩上に生育しているが、個体数は減少している。園芸目的の採取防止をはかることが必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

クモキリソウ ラン科
Liparis kumokiri F.Maek.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：長尾利宏

■**選定理由**：県内の山地に点在するが、以前より希少化が進んでいる。

■**特徴**：山地や低地の林床に生育する多年生ラン科草本。かつては里山の樹林下で頻繁に見られたが、最近は見つけにくくなり、集団も数株の小さなものが目立つ。森林伐採や手入れ不足の影響が考えられる。葉は2枚、楕円形で根元から出る。葉縁は細かく縮れて波うち、葉脈は不明瞭。和名は、花の形がクモに似ることによる。花期は6月下-7月中旬。花茎は15 cm-30 cmで直立し、5個-10数個の淡緑色の花をつける。苞は卵状三角形で鋭頭。萼片は3枚、細長楕円形。側花弁は2枚、線形、鈍頭で萼片とほぼ同長。唇弁は中ほどから下方に巻き込んでいる。

■**分布** 県内：点在。県外：北海道から沖縄。北東アジア。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地自然林の保護。林内作業時の配慮。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：長尾利宏

コ克蘭 ラン科
Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子市 2010.7.5/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自然植生が保たれている史跡や神社の常緑照葉樹林下に生育がみられる。確認地は比較的多いが、個体数は少ない。

■**特徴**：シイ、タブなどの自然植生が保たれた照葉樹林内の湿った場所に生育する多年生のラン科植物。前年の偽球茎と新しい球茎が並列する。葉は2-3枚、広楕円形、鋭頭。花は7月、暗紫赤色、総状にまばらにつける。花茎は円柱形で20 cmぐらい。唇弁は倒卵形、先端凹頭。和名は花の色を表す。花期が夏で目立たないため、ランの中では比較的採取されにくい、愛好家もあり、採取に注意すべきである。

■**分布** 県内：鳥取市・福部町・気高町、湯梨浜町、倉吉市、北栄町、琴浦町、大山町、米子市、伯耆町、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：現存の常緑照葉樹林の保護。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

フウラン ラン科

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市 2010.7.15/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：分布確認地は多いが、人気が高く、低い場所の着生個体は採取されて、高所にのみ残っていることが多い。絶滅が心配される。

■**特徴**：照葉樹林の老木に着生する常緑のラン科草本。根茎は短く匍匐する。葉は密に互生し、広線形、厚くて硬く、長さ5–10 cm、湾曲する。花期は6–7月、長柄があり総状に白い花をつける。距は長く線形で下垂する。低地の社叢でシイ、タブの樹幹に着生することが多く、双眼鏡で樹幹上部に気根がはっていることで生育確認した。浦富の社叢では採取により絶滅した。同様の例を各地で古老に聞く。西部は要調査。

■**分布** 県内：鳥取市・河原町・気高町・鹿野町、三朝町、伯耆町、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保護、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヨウラクラン ラン科

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取市佐治町 2000.7.20/撮影：松本 綾

■**選定理由**：もともと生育に適した地域は少なく、山間部の生育環境の悪化や、愛好家による採取などによって、減少が顕著である。

■**特徴**：溪谷沿い岩角地の樹木樹幹や枝、岩上に下垂して着生する小形の常緑ラン科草本。細い気根を基部から伸ばし、数個の茎を叢生、長さ2–5 cmになる。明緑色でやや肉厚の葉が互生し、線状長楕円形で、鎌状に外曲し、左右に扁平に10枚程度つく。4–6月、茎頂に2–8 cmの穂状花序が伸び、微小（約1 mm）で緑黄色の花が多数つく。和名は長く下垂する穂状花序を仏教上の垂れ飾り「嬰落（ようらく）」に見立てたもの。

■**分布** 県内：鳥取市・佐治町、三朝町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。溪谷沿いの自然林保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：松本 綾

サギソウ ラン科

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2009.8.16/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内には自生に適した湿地が少ないうえに、自生地の環境条件も悪化している。個体数が少なく、園芸目的の採取圧がある。

■**特徴**：山地の日当たりのよい湿地に生育する多年生のラン科草本。減少が著しく、県内西部では絶滅した。地下に走出枝を伸ばして球茎をつくる。茎は直立、15–40 cm。葉は互生、花期は7–8月。純白。幅の広い唇弁をもち、縁が糸状に裂ける独特の形で人気が高い。距は長く3 cmにも達する。自生地では、以前から個体数が少なくいつ絶滅してもおかしくない。サギソウは栽培品が多く、玄関先に鉢植えを見ることも多い。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町。県外：本州（東北以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。自生地の湿原の植生管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：71。

執筆：永松 大

ジンバイソウ ラン科
Platanthera florentii Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2007.8.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：生育地はブナ林に限られるためブナ林の減少とともに少なくなつた。分布地では数個体が群生していることが多い。

■**特徴**：ブナ林下にはえる多年生のラン科草本。高さ30 cm程度。葉は2個、長楕円形、同形同大、光沢があり、長さ10 cm内外、縁は波状にちぢれ、茎の下部に対生状に接してつく。鱗片葉は花茎に数個、披針形、先端が曲がり下向する。花は8-9月、淡緑色、穂状。萼片はやや厚い、唇弁は広線形、距は前方に湾曲し長い。ブナ林下の山道周辺に生育することが多い。目立たないため採取はないが、踏みつけられることがある。

■**分布** 県内：氷ノ山、三国山、大山、烏ヶ山、毛無山。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護。山道の手入れに注意を要する。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ミズチドリ ラン科
Platanthera hologlottis Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取市国府町 2004.7.2/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は山間の湿地に隔離的に分布し、面積が狭く、個体数も少ない。湿地の生育環境悪化により減少傾向である。

■**特徴**：山地湿原に生育する中型の多年生ラン科草本。茎は直立、高さ40-80 cm。葉は披針形、下部の数枚は大形、次第に小さくなる。花は6-7月、白色、茎の先端に多数咲きあがり円錐状。唇弁は舌状、倒卵形、香気があり美しい。和名は花の形を千鳥になぞらえたもの。東部の菅野湿原は県指定天然記念物、県環境保全地域に指定されている。ヨシなど大型草本が繁茂し開水域が狭くなっているので手入れが必要である。西部の山地湿地では、狭い湿地で開水面が少なく、個体数はわずか2本である。

■**分布** 県内：鳥取市国府町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地の保全管理。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：101.

執筆：坂田成孝

マイサギソウ ラン科
Platanthera mandarinorum Rchb.f. var. *neglecta* (Schltr.) F.Maek. ex K.Inoue

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山(未同定) 2011.6.26/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：2010年に大山で写真から仮同定されたが、近縁亜種が多数あり、今後正確な同定と絶滅可能性評価が必要。今回は情報不足とした。

■**特徴**：日当たりのよい草地に生える多年生ラン科草本。種内変異に富むヤマサギソウの変種とされ、距が上を向き、背萼片が円形、側花弁は背萼片と同長の点で基本種から区別される。花期は6-7月。2010年に大山上部で撮影された写真をもとに本種と仮同定された。正確な同定のために詳細な調査が必要である。

■**分布** 県内：大山。 県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：実態調査の継続。自生地の急激な環境変化を避ける。自生地の保全。

■**文献**：—

執筆：永松 大・谷亀高広

ヤマサギソウ ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山(未同定) 2011.7.3/撮影：谷亀高広

■**選定理由**：県内では数年前から大山でヤマサギソウとされる写真が撮影されている。近縁のマイサギソウを含め、今後の調査による正確な種同定と実態調査が必要であり、注意喚起のためにも情報不足に位置づける。

■**特徴**：日当たりのよい草地にはえる多年生ラン科草本。以前から大山地域に生育しているとの情報があった。ヤマサギソウ類には多くの亜種が報告されており、マイサギソウの可能性を含め、種同定と生育実態のより詳しい調査が必要である。今回は未同定の写真を掲載している。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道・本州・四国・九州・東アジア。

■**保護上の留意点**：実態調査の継続。自生地の急激な環境変化を避ける。自生地の保全。

■**文献**：—

執筆：永松 大・谷亀高広

コバノトンボソウ ラン科

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. subsp. *nipponica* (Makino) Murata

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2010.7.9/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：孤立した山地湿原にわずかに残り、それぞれの個体数も少ない。生育環境の乾燥化などの変化により存続が危ぶまれる。

■**特徴**：日当たりのよい山地湿原に生育する多年生ラン科草本。茎は直立し高さ30–40 cm。葉は1個で狭長楕円形、長さ3–7 cm。花は7月初旬から中旬に咲き、淡黄緑色で少数つける。距は長く弓状に曲がり跳ね上がる。県内生育地の多くでは、オオミズゴケの中に生育している。

■**分布** 県内：岩美町、日南町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿原の保護。乾燥化防止をはかる。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

トキソウ ラン科

Pogonia japonica Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



江府町 2008.6.28/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育環境が山地湿原で隔離分布しており、また生育環境が乾燥化、森林化などにより悪化してきている。オオミズゴケの中など草丈の低い湿地に生育しているため、ヨシなどが侵入してきている生育地では、絶滅が心配される。

■**特徴**：日当たりのよい山地湿原に生育する小形の多年生ラン科草本。茎は高さ15–25 cmで、葉は茎の中央部に1枚、狭長楕円形。6月上旬–下旬に淡紅色の花を1個つける。

■**分布** 県内：岩美町、三朝町、米子市、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿原の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：100。

執筆：矢田貝繁明

ヤマトキソウ ラン科
Pogonia minor (Makino) Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



撮影：長尾利宏

■**選定理由**：県内では東部の山地と大山の一部地域にのみ分布する。個体数は少なく絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：日当たりの良い山地・林間草原に見られる多年生ラン科草本。草丈は8–20 cm、茎の中央より少し上に1葉をつける。葉はやや厚く肉質、長い楕円形、長さ3–7 cm、幅4–15 mm。花期は7月初旬。茎の先端に上向きの淡い桃色の花を1個付け、好天時に花冠をわずかに開く。9月下旬に結実した鞘の中に無数の茶色種子を観察できる。類似のトキソウは湿原に生育し、一回り大きく、花は全開する。

■**分布** 県内：若桜町、大山町、江府町。 県外：北海道・本州。四国と九州にまれ。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地草原の保全管理。除草作業時の配慮。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：長尾利宏

ウチョウラン ラン科
Ponerorchis graminifolia Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2010.7.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地はごく限られており、生育数もわずかである。1980年代には、生育地で専門業者や愛好家がザイルを用いて採取していたとされ、激減した。

■**特徴**：明るい崖の岩隙に生育する多年生のラン科草本。茎は斜上し長さ10 cm前後、葉は広線形で数枚。6月下旬から7月上旬に紅紫色の花を数個つける。

■**分布** 県内：非公開。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育環境の大きな変化は少ないが、厳重な採取防止を怠らないと絶滅のおそれがある。過去に生育していて一度採取された場所では、20年以上経過しても回復していない。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

マツラン ラン科
Saccolabium matsuran Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2010.5.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：着生植物で県内での生育地がきわめて少なく、生育本数もわずか。このままでは絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：モミ、マツなどの樹幹に着生する小型の常緑ラン科草本。茎は樹幹をはい長さ1–3 cm、葉は2列に互生し長さ約2 cm、幅3 mm。5月上旬に、淡黄緑色に細紫点のある小花を数個つける。現在確認されている生育地では、アオハダの老木に着生しており、周辺のウラジロガシやスギにはカヤラン、セッコクなども着生している。

■**分布** 県内：非公開。 県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：着生木に加えて周辺樹木の保護による生育環境の変化防止、厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

カヤラン ラン科

Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取市 2010.5.7/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では局所的に生育するのみ。着生する樹木は減少傾向で絶滅の危険性が非常に高い。

■**特徴**：茎は長さ5 cm，葉は互生，披針形で長さ約3 cm，暗緑色。花期は5月，色は短黄色。果実は円柱形で長さ約5 cm。鳥取市佐治町では溪流沿いの岩尾根に生育するヤマグルマの樹幹に着生している。鳥取市では溪流沿いの平地に生育するカスミザクラの樹幹，およびアカメヤナギの老木の横に広がった枝に着生しているが，一部が最近見られなくなった。

■**分布** 県内：鳥取市・佐治町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自然林の保護。着生している樹木，および周囲の樹木の保護。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ヒトツボクロ ラン科

Tipularia japonica Matsum.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



江府町 2009.6.19/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が限られており，生育本数も少ない。

■**特徴**：山地の樹林内に生育する多年生ラン科草本。葉は狭卵形で3-7 cm，先端はとがる。葉柄は3-7 cm，葉は1枚。6月中旬に10 cm前後の花茎に淡黄緑色の小さい花を5-10個つける。県内で現在確認されている自生地は，スギの30年生造林地内の林床である。植物体は目立たないことが多いので，今後の調査努力が必要である。

■**分布** 県内：江府町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地の現在の環境維持と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ショウキラン ラン科

Yuania japonica Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2008.7.6/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：深山林下，渓谷の不安定な林床に生育するので絶えず生育地が変わり，自生確認が少ない。森林の伐採，倒木などの環境変化が個体減少につながる。

■**特徴**：ブナ帯域の林内，渓谷沿いの腐食堆積地にはえる腐食寄生のラン。根茎は長く伸びる。花茎は高さ20 cm内外。鱗片葉は半月形で開出。花は7-8月，淡紅紫色で長柄，上部の葉腋に2-7個つく。花卉と萼片はほぼ同長で楕円形。距は長楕円形，淡黄色。和名は鐘馗を連想したもの。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町，若桜町，智頭町，三朝町，琴浦町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の自然植生森林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヤマモモ ヤマモモ科
Myrica rubra Siebold et Zucc.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子市 2009.7.20 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：公園樹，街路樹として植栽されている個体は多いが，自生は県内西部の限られた場所のみ。希少性が高い。

■**特徴**：丘陵地の尾根沿いに生育する常緑広葉高木で，高さは10–15 mに達する。雌雄異株。葉は互生で枝先に束生状につく。花は3–4月，帯赤色で雄花穂は太く，雌花穂は細長い。果実は，直径約1 cmの球形で，夏に熟すと暗赤色になり，甘くて食べられる。

■**分布** 県内：米子市，南部町。県外：本州（福井・関東以西），四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保護。

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

オオバヤナギ ヤナギ科
Salix cardiophylla Trautv. et C.A.Mey. var. *urbaniana* (Seemen) Kudô

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.5.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：全国的な分布は本州中部以北と伯耆大山であり，県内自生地は分布南限で隔離分布。個体数は限られており，絶滅の可能性がある。

■**特徴**：急流河川など砂礫の多い河畔に生育する落葉高木。葉は長さ10–20 cm，幅2–7 cmの長楕円形。花は淡黄色，穂状で垂れ下がり，花期は5月から6月。大山の元谷，南光河原，二の沢，三の沢，川床の溪岸や砂礫の堆積地に自生する。自生地は河原で，個体群維持のためには定期的な自然かく乱が必要と考えられる。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：河川（砂防）工事による伐開と工事による環境変化によって自生環境の消失が懸念される。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ミヤマハンノキ カバノキ科
Alnus crispa (Aiton) Pursh subsp. *maximowiczii* (Callier) Hultén

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2008.6.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では大山烏ヶ山山頂部にのみ分布する。隔離的な分布南西限の個体群であることから衰退が懸念される。

■**特徴**：北日本に生育する落葉低木。加賀白山以北の亜高山・高山帯で低木林を形成し，県内の個体群は分布の中心から飛び離れた隔離分布。高さ5 mほど，葉は広卵形–卵円形で，長さは5–10 cm，先は尖り，基部は浅心形。花は5–7月に葉の展開と同時につける。烏ヶ山山頂部は標高的には亜高山帯に届かないが，崩壊が激しく急峻な地形で季節風など厳しい環境のため，遺存的に生育しているものと思われる。

■**分布** 県内：烏ヶ山山頂部。県外：北海道，本州（加賀白山以北）。カムチャッカから朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：烏ヶ山山頂部の自然環境保全。

■**特記事項**：分布南西限（隔離分布）

■**文献**：70,76.

執筆：永松 大・清水寛厚

カワラハンノキ カバノキ科

Alnus serrulatoides Callier

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2007.10.17/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では日野川上流部にのみ生育する。河川上流部の岩石河床・河畔に生育し、河川改修で減少するなど自生状況は不安定だが、日南町内には少なくないため、今改訂ではVUからNTに変更した。

■**特徴**：暖地の河岸などに生える落葉小高木。県内では日野川流域の河岸岩石地に分布。葉は互生でやや厚い。花期は葉の展開前の2-3月。雄花序は枝先に2-5個下垂、雌花序は上部葉腋に1-5個が上向きにつく。太平洋側に分布の中心がある。個体群の維持には、河川が本来持っている河原の定期的なかく乱が必要と考えられる。

■**分布** 県内：日野川上流域。県外：本州（東海以西）、四国、九州（宮崎県）。

■**保護上の留意点**：日野川上流域岩石河床の保護。自然の河川がもつ多様な立地を残すことが必要。

■**文献**：—

執筆：永松 大

ハシバミ カバノキ科

Corylus heterophylla Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2007.9.13/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：里山の維持管理不足や植林などで自生地が減少、他県でのレッドリスト掲載例も多い。県内では西部の2カ所で数本が確認されている。

■**特徴**：県内では西部の落葉広葉樹林、林縁部の陽光地にはえる樹高1-2mの落葉低木。葉は広倒卵形、急鋭突頭または切形、基部心形、縁に重鋸歯がある。県内高標高地に見られるオヒョウの葉と似ているため、別名オヒョウハシバミといわれる。花期は4月、雄花序が垂れ下がるが、葉の展開前に咲くため気づきにくい。結実は9-10月。堅果は1.5cmで球形、長さ3cm内外の葉状果苞に包まれる。県内でふつうに見られるツノハシバミは、葉は基部円形、先は切形にならず、堅果がとっくり型。

■**分布** 県内：米子市、日南町。県外：北海道、本州、九州

■**保護上の留意点**：里山の落葉広葉樹林維持、伐採時の本種の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

コバノチョウセンエノキ ニレ科

Celtis biondii Pamp.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2007.6.13/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育確認は1カ所のみで、個体数も少ない。すぐには絶滅しないが、人の生活圏内にあるため、公共工事等が懸念される。

■**特徴**：やや乾いた丘陵地に生育する落葉小高木。葉は互生、葉は倒卵形で長さ3-7cm程度、先端が尾状に突き出す。左右やや不対称。葉身は硬くて厚く、表面に粗毛あり、中ほどから先端にかけて少数の鋸歯がある。エノキに似ているが、葉の先端が細く尖る点で区別できる。

■**分布** 県内：鳥取市河原町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮・中国。

■**保護上の留意点**：里山の落葉広葉樹林と伐採時の本種の保護。

■**特記事項**：鳥取県立博物館にさく葉標本あり

■**文献**：29.

執筆：永松 大・坂田成孝

サンショウソウ イラクサ科

Pellionia minima Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2010.5.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内西部の限られた区域にのみ分布し、個体数も少ない。スギ造林地の林床や小溪流の溪岸に生育しており、生育環境は不安定。

■**特徴**：山地溪谷沿いの陰湿地に生える多年生草本。雌雄異株で、茎は匍匐し、長さ10–30 cm、緑褐色で微細な毛が密生する。葉は互生し、ゆがんだ倒卵形、長さ1–2 cm。両面に微細な毛が密生する。花期は4–6月。初版で報告されたもう1カ所の自生地はオオサンショウソウの誤同定。オオサンショウソウは、より葉が大きく茎がよく分枝し、ほぼ無毛。

■**分布** 県内：南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生している造林地の皆伐、溪流の改修など急激な環境変化のないよう配慮が必要。

■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

ツクバネ ビャクダン科

Buckleya lanceolata (Siebold et Zucc.) Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2003.9.21 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県東部に孤立的に生育する。半寄生植物とされ、数が少なく生育基盤が脆弱である。

■**特徴**：スギ・ヒノキ、モミなどの根に半寄生する落葉低木。ヒノキなど針葉樹の混じる低山のやせた尾根、崖状地に生育する。高さ1.5 m程度になり、多数枝分かれして横に広がる。葉は対生し、卵形–長卵形で先は尾状に尖る。雌雄異株。花期は5–6月、淡緑色。雌花は枝先に1個つく。花弁はなく羽状の長い苞が4枚ある。雄花も枝先につくが目立たない。果実は長さ約1 cmの楕円形で、長さ約3 cmの苞が残る。羽根突き羽によく似る。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、若桜町、智頭町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地の自然林保護。

■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

イブキトラノオ タデ科

Bistorta officinalis Delarbre subsp. *japonica* (H.Hara) Yonek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



蒜山 2010.6.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では生育地がごく限られている。山地草原の利用放棄により個体数が減少している。

■**特徴**：山地や高原の日当たりのよい草原に生育する多年生草本。茎は直立して高さ1 mに達するが、風の強い尾根では低くなる。根生葉は長柄があり、葉身は披針形、長さ20 cmに達し、基部は翼状になる。莖葉は細長く数も少ない。光合成には根生葉の寄与が大きく、生育には背の低い草原が適していると思われる。花期は7–8月、長さ3–10 cmの花穂を先端につける。

■**分布** 県内：倉吉市関金町（蒜山）。県外：北海道、本州、九州。北米。

■**保護上の留意点**：草刈りなど山地草原の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：磯江茂秋

ハルトラノオ タデ科

Bistorta tenuicaulis (Bisset et S.Moore) Nakai var. *tenuicaulis*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2010.4.20/撮影：上田康恵

■**選定理由**：中山間地のほ場整備や利用放棄にともなう草原の消失により減少傾向。未整備の山間畦地では微増傾向の場所もある。

■**特徴**：山地落葉樹林の沢沿いや礫地、草地に生育する小形の多年生草本。根茎は太く、甸甸、ふくれた節がある。葉は根出、長卵形、基部は葉柄に沿って流れ、葉身は薄い。花期は4-5月、白色の短穂状花序。和名は穂状花序を虎の尾に見立てたもの。キクザキイチゲやアマナと混生することが多い。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、鳥取市用瀬町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山間地のほ場整備、沢沿い作業道、林道開設により自生地消滅。山地谷沿いの植生保護と草地維持が望まれる。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

ヤナギヌカボ タデ科

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2001.11.8/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内ではため池の水辺にまれに自生。ため池の管理方法変更、または利用放棄により複数の自生地で生育が確認できなくなった。

■**特徴**：湿地や水辺に生育する1年生草本。県内ではため池の流入部水湿地に生育。茎は地をはい上部で斜上分枝、高さ30 cm内外。葉は狭披針形、長さ6-8 cm、鋭突頭、短柄がある。葉鞘は筒形、縁毛は等長。花期は9-11月、紅色でまばらな穂状につく。平地に見られるイヌタデは葉が広披針形、鋭頭。花は密につく。山地のハナタデは葉が卵形、先は尾状にのび鈍頭。花は淡紅色でまばらにつく。気高町のため池では、冬場の水抜き中止により生育適地減少で2007年消失。岩美町のため池は土手改修後、水湿地がなくなり個体群消失。2カ所とも2010年生育なし。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ため池の保全管理による自生環境の復元。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ノダイオウ タデ科

Rumex longifolius DC.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市 2005.6.30/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：山地の溪流堆積地や水田土手に見られる。刈り払いがなくなり高茎草本群落に変わった場所が増え、本種は減少が著しい。

■**特徴**：山地溪流沿いの日当たりのよい草地、崖地に生育する大型の多年生草本。茎は直立し1 m以上になる。根出葉や下部の茎葉は、有柄、長楕円形、基部心形、両面無毛、波状縁、鈍頭で大きい。上部の茎葉は小さく長楕円形。花期は6-7月、円錐状輪散花序。果実の翼は円心形で全縁。谷川に生えるマダイオウは、葉の裏面脈状に硬い毛あり、果実の翼は円心形で歯芽縁。近年増加の帰化植物エゾノギシギシは葉の裏面脈上に密な網状突起、脈は帯赤色、果実の翼は卵形、刺条突起あり。初版記載の氷ノ山はエゾノギシギシばかりで、本種は現在確認できない。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町。県外：北海道、本州。

■**保護上の留意点**：川沿いの草地、崖地の維持管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝